みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱＝474・528
※責任者＝文教部長　下川秀子

霊前に誓う決意

大谷分会の合同慰霊祭

【大谷分会発】　激しく闘いぬいた三二三日の闘いのなかで、志なかばにして倒れられた故黒田さん（地域闘争本部警戒勤務部、卒倒数日後死亡）と、就労後のかくなる合理化の犠牲となられた故川上さん（第二組合員の手による炭車逸走事故）、また共に闘い、惜しみなき献身の中で悪石の犠なく死亡された組合員の家族五柱の初盆は、地域分会と主婦会員の手でその霊を慰め、闘争中を省みてここに決意も新たに組織を守る誓いと共に、合同慰霊祭を去る十四日午後一時から一五〇名の組合員と家族が集まって厳しゆくな中にひらいた。

会場には集会所をあて、中央正面には三池労組のマークが赤地に白で大きくかかげられ、真正面には川上さんをはじめ黒田さんら五名の遺影を祭り、祭壇は赤旗と花輪でうめられた。慰霊祭は〝炭塵る仲間〟で組合員・主婦会員の入場に続き遺族の入場。会場は水をうったような静かな中に始められ、地域分会・主婦会代表が弔辞を送れば、会場のあちこちからすすり泣きの声が後をたたなかった。

組織を守りぬく

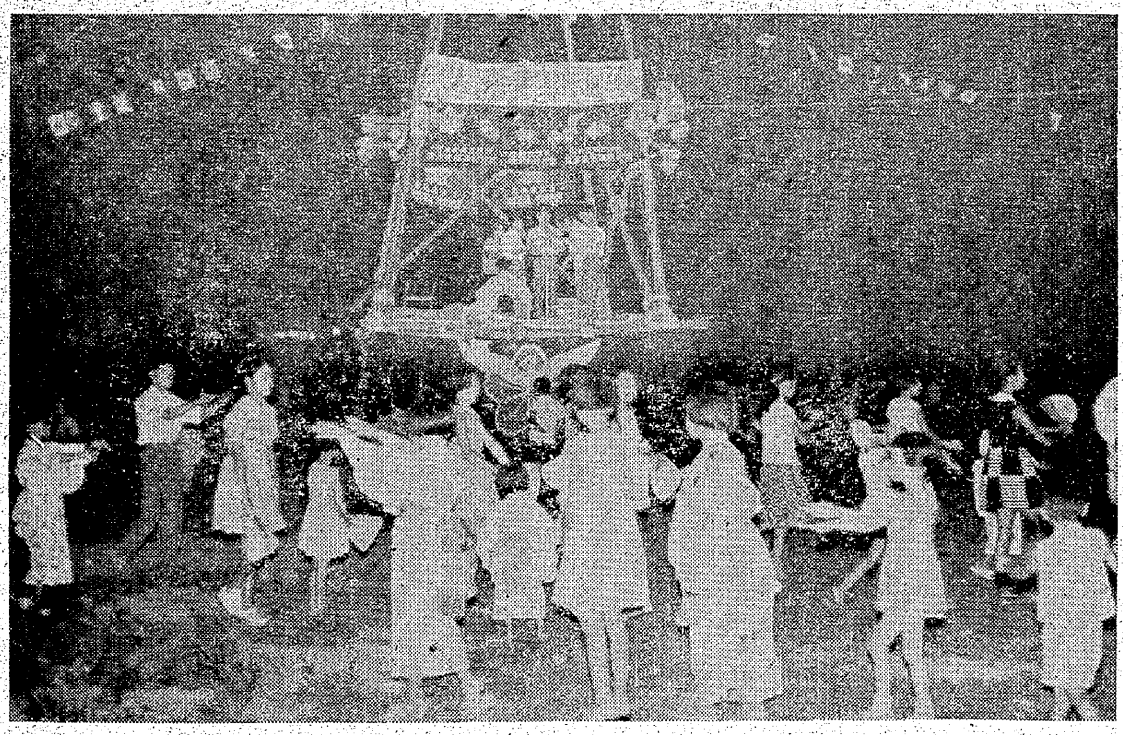
闘争本部の常駐として警戒勤務中の黒田さんは勝利を信じつつ活動中、卒倒（来谷した福岡県教職員組合ニュースカーにて平井分院へ運び、入院後死亡）闘いの終結を見ず、残念でしたろう。分裂策動に動ぜず労働者の団結を守り通して闘われた信念こそ、労働者の鑑であり私たちのよき手本です。

また、合理化の名でそのしわよせは第一、第二を問わず二二名の仲間が殺され、数百の労働者が傷つけられていることは、合理化の本質をもつとも特徴的にあらわしている。

労働者として、今こそ生命を守る闘いを厳然として闘わねばならないことを誓います。お家族の五柱の皆さんにも長い闘いの連続でした。生きるための闘いでした。闘いは勝利なくても労働者同志の連帯と団結と労働者同志についた灯は、全国へ全世界へ輝ひろくひろがり、三池の灯はいまもなお燃えひろがつています。

闘いの最中で保養もできず、御他界されたあの日、あの時を思い出すたびに、なんといつていいやらその言葉を知りません。残された家族の皆さんのことも自分たちのこととして、共に助けあい、しあわせな社会の建設へまい進し、三池労組を守りぬきます。私たちは励ましあい、助けあい、真実を私たちの手によつて勝ちとり、しあわせな日の訪れるまで頑張ることを誓います。

とのあいさつが行なわれ、大谷の組合員・主婦はこんども頑張りぬくことを霊前に誓つて合同慰霊祭を終つた。



各地域で団結盆おどりは盛大に開かれた　写真は勝立グラウンドで（朝日ケ丘分会太田さん提供）

つい先日のこと、共産党の方が二、三名見えられ「松川事件の救援活動にどうしても資金が足りないから、恐れ入りますがカンパをお願いします」といつて募金名簿を出されました。

「この炎天下に大変ですね」といつてお金を差し出すと「お宅のお隣りはちよつと変つていますね」といつて笑われます。

「えゝ、あそこは第二組合ですから」というと「うちは関係ありません」といつて断わられたとのこと。

三池労組から脱落したにとどまらず、この人たちは、労働組合、民主団体、文化人その他あらゆる層の人々が、無実の罪から救おうと立ち上がつたこの真実追求の活動にまで、背を向けるのでしようか。ほんとうに可哀想というほか形容の方法がありません。

自己の真実性に自信を

本所　中原千春

あの八月八日の全員無罪の判決に躍り上がつた全国民の姿は、一体何なのでしようか。これこそは人間が永遠に渇望して止まない真実の勝利への喜びを、端的に表わしたものではないでしようか。

とくに、三池闘争いらい資本家―政府―裁判所―官憲という一連のルートを印象づけられてきた私たちにとつては、あらゆる妨害にめげず、国家権力の手から真実を奪い返した大衆の力に、心からの拍手をおくりたいのです。

現在、会社は私たちの主人に差別待遇や期末手当の差額をもつて組織切りくずしにやつきとなつています。

しかし、私たちは誤つたマスコミや仲間の不当逮捕などにも動ぜずぎりつづけてきた三池労組の主婦としての正しさを、いまさら捨てるわけにはゆきません。

過去も現在も、そしてこれから先も苦難の道は続くでしようが、あの松川事件の十七名の方々が、十二年間もの苦労を克服して、自己の真実性を貫き通された事実は私たちを勇気百倍に鼓舞してくれます。

私たちは、第二組合の数の問題などに動揺することなく、三池労組の歩む真実の道に自信をもち、その正当性を貫き通しましよう。

最後の勝利を確信して。

レジャーはいずこ？

駆け歩る記

新週刊編集部

＝提供＝

新週刊で、〝パパにもレジャーを〟という特集を思いたつたのは六月二十九日、ILO総会が週四十時間の勧告決議を否決したときだつた。口を開けば「世界一の高度成長経済」をうたい「日本は先進工業国だ」と自慢している池田内閣が、世界の檜舞台で真つ先きに立つて四十時間労働を踏る挙に出た厚顔さにはア然とするばかりだつたが、それと同時に、われわれはあまりに自分たちの労働について無関心すぎるのではないだろうかという疑問にとらえられてしまつた。

「外国では四十時間労働が現実の問題になつているのに、わが国では四十八時間という労基法の最低基準すら理想論として白眼視されている。日本の労働者は働き過ぎてはいないか。そして、それがなぜ一般の人びとに不思議がられないのだろうか？」

レジャーブームの実体は

街にはテレビやラジオや商業紙の送り出すレジャームードがいつぱいで、ともすると、二本立映画をみたあとパチンコ屋で五十円も消費すると、いつぱしレジャーブームに乗りおくれはしなかつたぞというような錯覚に引きずりこまれて満足しているようなわれわれの日常感覚に、ILO総会の週四十時間労働の否決はまさに冷水を浴びせかけたようなものだつた。

編集部ではレジャーブームの実体をさぐりながら、レジャー（余暇）の日本的？　定義を明らかにするという大それた特集企画を立てた。ところが、編集部の意気ごみの肩をそらすようにすぐわかつたことは、レジャーブームの実体がいかにつつましやかなものだつたかということである。

〝海に山にどつと繰り出した人出〟と商業マスコミがあおりたてても、実はその海水浴は一カ月も前からプランされた唯一つの家族旅行で、その朝五時起床、満員の電車に立ち通しでやつと到着、手を洗うようにパチヤパチヤと泳いで、ジュースとひや麦を流しこんで帰途につく。帰りの電車は通路にすわりこんでグウグウという、いやはや情ないやら、腹立たしいやらのレジャー享受なのである。

うらやましい外国の週末旅行

たまたま、一泊の温泉旅行へと選出した一行は、往復信切バスに揺られての招待旅行や積立旅行と相場がきまつている。

これが外国の週末旅行ときたら一家そろつて金曜の夕方から自家用車で郊外に出、ホテルでだんらんの一夜を明かして土曜日に帰宅日曜はゆつくり自宅で休養する。これを毎週くり返しているのにくらべたら、なんと日本的つつましやかさだろう。

もともと、レジャー（余暇）は高度に発達した資本主義経済のうみ出したもので、労働エネルギーの再生産するための休養のほかに享楽追求の意義も持つているはずである。ところが、わが国のレジャーは休養と享楽の二つを同時に十分に充足させてはいない。

家庭でゴロ寝してテレビを見ていれば休養にはなるが享楽には程遠い。享楽しようと思えば終日遊びまわつて休養にはならない。同時に双方を満足させようとすればカネがないのである。三ツ峠で二人のサラリーマンのパーティに会つた。彼らはこういつた。

「ボクたちは、昨夜十二時まで残業して、けさ一番の列車に乗つてきました」

どこかが狂つていないだろうか？

働きすぎる日本の労働者

日本の労働者は外国の労働者にくらべると毎週十時間もよけいに働いている。（残業時間をふくめて）そして、やつと手に入れるレジャーはささやかな満足しか与えてくれない。

ある町工場の労働者は答えた。

「ボクたちはふつうに働いていたらとうていレジャーには手が届きません。一カ月百五十時間残業すれば何とかできますが……」

日本の労働者は労働時間が短縮されただけではレジャーを享受することができない。やつぱり賃上げを獲得しなければ駄目である。

鶯チーム優勝

四山少年野球大会

四山支部主催第一回少年野球大会は七月三十日に試合を開始、いご連日つづけ八月六日に優勝戦の予定であつたが、雨のため延期となり八月十二日の優勝戦で全試合が終了した。

参加十四チームの間に熱戦がつづけられたが、結局優勝戦に進出したのはうぐいす分会と大島二分会のチーム、両チームの間で初の優勝争いが行なわれた。

とくにうぐいすチームの藤森投手は少年と思われぬほどの充実した投球ぶりで、大島チームにわずか一塁に二ランナーを許しただけで三振十七奪取というめざましい活躍で、試合を一方的におしすすめ十三対〇でうぐいすが圧勝した。

ここに四山支部少年野球の栄冠はうぐいすチームに輝やいたが、勝利の要因をつくつたのは藤森投手で、優勝戦では十七、その前の宮内との対戦では十三というおどろくべき数の三振をとり、彼の一球一球にさかんに拍手がわいていた。

なお、優勝旗授与のほか最優秀選手と最優秀選手賞の二つが藤森選手におくられ、敢闘賞は大島二分会のバッテリーにおくられた。

成績つぎのとおり

【優勝】うぐいすチーム　【二位】大島二分会チーム　【三位】福五、敗島チーム

抵抗をつづけます

港務　田中綾子

就労後八ケ月、夫たちは悪どい差別・労働強化・低賃金にめげず頑張りつづけております。

また主婦は五千円から一万円の値下げで、予算のたてようもないのですが、こんどの生活について真剣に考え、勝利の日がくるまでは決して台所からはヒメイをあげないようにと、多くの人が内職をして夫たちを支えはげまし、またきびしいこれからの闘いにそなえて学習や仲良し運動を広めております。

いまもなお全国の仲間が暖く見守り、励ましてくれることを忘れることは出来ません。

就労後はやくも十二名もの尊い命を会社はうばつたのです。だから主婦会は保安問題で会社へ抗議しましたが、会社幹部は誠意を欠き無責任な態度でした。そればかりではありません。

一・二〇〇名の離職者の方でいまだに職がなく家族をかかえこんどの生活にどうしてたえて行くかを悩んでいるなど困難なことばかりです。

いま一つは法廷闘争があります。正当な労働争議であつたのに「ないこと」を「あることと」にデツチ上げ、組合員や主婦会員に被告という名をつけているのです。

私たちは、歴史的な大闘争の中で、働く人間と、その家族として、正しい指導のもとに、当然の行動をしたことを確信しています。全国の仲間の連帯と支援につつまれて、友情が深まり正しい考え方が育つたといわれています。それが罪人として取扱われるのも、闘うものへの一つの攻撃だと考え、被告団をみんなの力で守りぬきたいと思います。

毎日のくらしの中では、お金が足りなくてつらい思いで買物かごを提げることもあります。職場の差別や、災害の話に残念で胸がかつとすることもあります第二組合の主婦の何やらほこりしげな顔色に愛切り者と叫びたくなる時もあります。

でもふまれても、むしられてもまた芽を出す雑草の根強さで組織を守り、台所をやりくり、会社の攻撃に抵抗してゆきます

資金カンパ

▽八月三日
奈良市菩提町労働会館奈良地方労働組合総評議会、福岡県小原港外労務管理事務所江崎保衛、東京都府中市本宿三池を守る会

▽八月八日
東京都千代田区丸の内二ノ四三菱造船町沢時治、三菱造船経理部資金課河田潤、三菱造船資材部資材第二課豊田三丸

▽十一日
川崎市東渡田三丁目昭和電線労組三池を守る会、川崎市宿河原二一八六柏俣操

▽十二日
新潟県東蒲原郡全電通労組津川分会三池を守る会

▽十七日
王子製紙労組春日井支部春日井三池を守る会、長野県屋代局区内全逓更埴支部三池を守る会、長崎市五島町全九州電力労組三池を守る会